

【学校経営方針】 重点項目

- |                                    |                                   |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 生徒1人ひとりを大切にし、生徒が意欲的に取り組む学校生活の展開 | 4. 人権教育、道徳教育、特別支援教育を根底に据えた教育活動の推進 |
| 2. 社会人として必要な資質の育成と基本的生活習慣の確立       | 5. 魅力化・地域連携                       |
| 3. 望ましい勤労観の育成と進路指導の充実              |                                   |

令和 5 年度 各分掌等の重点目標及び具体的目標 【年度末評価】 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
総務部	2	安全教育の推進と防災意識の高揚	防災意識の高揚を目指し、火災や地震など実際に即した避難訓練を実施する。	実際に即した避難訓練を実施できたと答えた生徒・教職員の割合	90%以上	80%以下	80%未満	A	生徒アンケート結果は90.6%、教職員アンケート結果は90.0%であった。1学期は地震想定、2学期は火災想定で避難訓練を実施し、3学期は火災想定での避難訓練を実施予定である。	A
	5	広報活動の充実(家庭や地域への情報発信)	学校通信・学校新聞の充実、メール発信とホームページの更新を積極的に推進する。	学校通信、ホームページの更新をそれぞれ、10回以上行う。(概ね月1回以上、合わせて20回以上)	20回以上	15回以上	15回未満	A	現在、学校通信発行が8回発行。HP更新を14回(PTA総会、あいさつ運動、街頭指導、美化活動など)。学校通信については残り3会発行する予定である。	A
教務部	1・4	授業力の向上と基礎学力の育成	「翔陽スタンダード」の定着をより一層図ることで、全教職員の授業改善を目指す。	生徒による「授業アンケート」の項目「授業内容について」の平均点。	3.5点以上	3.0点以上	3.0点未満	B 3.49	ICT機器を利用するなどして授業改善は進んでいると思われるが、その輪を広げていきたい。学校全体の「翔陽スタンダード」を徹底させる雰囲気、下がっているかもしれない。次年度に向け改善策を検討したい。	B
	5	生徒募集の推進	中高連絡会、進路説明会、オープンスクールの充実	入学して実際にやってみたい、関心が強くなったと答えた中学生の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	B 88.5%	1回目が88.6%、2回目が87.5%であったが、日程を中学校の行事を参考に設定し、参加人数を増やしたい。2科で定員を超える出願者があったが、他学科は定員を下回った。次年度は、更に改善を加えたい。	B
生徒部	2	生徒育成に向けて生徒、保護者、教職員の協力体制の充実	・生徒会、各種委員会を通した生徒主体による活動の活性化 ・全教職委員による日常の生徒指導と保護者への周知	①「わたしは学校内であいさつをしている」②「身だしなみ指導、交通安全指導などの生徒指導を適切に行っている」③「お子様についてわたしの子どもは本校の身だしなみ規定を守っている」④「わたしは本校の身だしなみ規定を守っている」⑤「わたしは日頃から身だしなみ指導ができています」上記学校評価の平均点	95%以上	90%以上	90%未満	C 82.7%	今年度①97.7・A(94.4・A)、④95.7・A(85.8・B)と答えた生徒が増加したことは良かったが、保護者の②76.8・C(85.8・B)、③75.1・C(98.6・A)、教職員の⑤68.65・C(90.5・A)が昨年度より大幅に下がり、①②③④⑤全体の平均は82.79・Cであった。日常のスカート丈やリボンの緩みなど指導する場面が多く、生徒の意識と保護者・教職員の意識にギャップがある。身だしなみについて保護者の協力と生徒に自律を促すことが次年度の課題である。※R5(R4)単位:%、評価基準ABC	C
	5	魅力ある学校を目指した地域の方々との連携	・体育祭・翔陽祭で地域の方々との積極的な連携 ・体育祭では体育委員長、翔陽祭では文化委員長を実行委員会のメンバーに入れるなど生徒の要望や保護者や地域の方々の意見を積極的に取り入れる	「わたしは体育祭、翔陽祭など、本校の学校行事に満足している」と答えた生徒の割合。特に3年生が満足している割合を85%以上にする。	90%以上	85%以上	85%未満	A 94%	今年度、学校評価で「わたしは体育祭、翔陽祭など、本校の学校行事に満足している」と答えた生徒の割合は全体で94・A(89.4・B)達成度はAであった。特に現3年生は昨年84.8・Cであったが今年度は88.9・Bであった。コロナ感染症が収束し、制限のない中、生徒会を中心に学校行事への全校生徒の主体的な参加により満足度が向上したと思われる。来年度も満足度を上げるための取り組みを考えていきたい。※R5(R4)単位:%、評価基準ABC	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
進路指導部	1	進路保障	求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合	95%以上	90%以上	90%未満	C	教員の共通フォルダに、求人情報・指定校情報、訪問された企業や学校からの情報、および合否情報を迅速にアップすることができた。また、インターネットを活用し、求人票をみることができるシステムを導入し、今年度は更に情報発信という面で力を入れた。今後は浸透させていくことが課題である。	C
	2	進路保障	生徒が希望する受験先を確保する。	希望する企業・学校に内定・合格することが出来たという三年生の割合	100%	90%以上	90%未満	B	第一希望合格、内定者の割合:3年生95.3% 求人情報、指定校情報、入試方法など担任と連携して情報提供ができた。進路と学年部で連携し、企業とのやり取りを滞りなく行うことができた。今後、更に生徒の適性・能力を見極め、進路先の決定に有用な情報提供をしなければならない。	B
	5	進路保障	地元企業と連携した取り組みを推進する。	インターンシップ、企業セミナー、県内企業見学のキャリア教育で地元企業を知れたという生徒の割合	95%以上	90%以上	90%未満	B	企業にお願いして実施するキャリア教育もコロナ前のように行うことができた。生徒が外部の人との関わりが多くなったのは地元企業を知りきっかけが多くなったことに繋がった。	B
保健相談部	1	健康教育の推進	講演会の実施や保健通信を通じて、保健情報や健康情報を発信する。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている、学校は保健便りなどで感染症、健康診断、SC来校案内などの保健情報を提供していると答えた教職員の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 100%	すべての生徒・教職員が安心、安全に学校生活が送れるよう、今後も報告・連絡・相談の徹底に努め情報を発信していきたい。	A
	2	清掃活動の徹底	生徒保健委員会からの呼びかけもふまえ、時間いっぱい清掃することを徹底する。	掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている、掃除時間を守って掃除していると答えた教職員・生徒の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 平均 93.6%	教職員と生徒との認識にずれがあるようだが、生徒が主体的に取り組む清掃活動になるように引き続き指導の徹底をお願いしたい。	A
	5	相談活動の充実	校内での情報共有に努め、必要に応じて保護者・外部機関との連携をはかり、相談体制や支援体制を充実させる。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている、生徒の心や体の悩みについて応じてくれている、と答えた教職員・保護者の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 平均 91.3%	保護者に向けての情報発信が不足していたと反省する。定期的な情報の提供や保護者面談にあわせた相談窓口の開設などできることを模索していきたい。	A
図書研修部	1	図書館の利用促進	図書館利用の促進のために、利用しやすい図書館を整備し、広報活動を充実させる。	図書館利用促進のための取り組みを行っている、と答えた生徒・教職員の割合	90%	85%以上	85%未満	A	情報発信については、クロームブックのクラスルーム機能を使って全生徒に直接発信していくことで改善していきたい。 図書館利用については、年度当初のLHR年間計画作成時に担任の先生方へ有効活用の方針を提案していきたい。	A
	4	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒・教職員の割合	90%	85%	85%未満	A	今年度は全体講演会を実施したため、クラスごとの人権教育LHRを十分確保できなかった。今後は毎学期1回の人権教育LHRを定着させ、複数の教員による授業展開を目指して多くの方が人権教育に関わる機会をつくる。	A
寮務部	2	規律ある寮生活を確立する。 1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧に指導する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒、およびその指導ができたと答えた教員の割合。	95%	90%	90%未満	A 平均 97.5%	生徒のアンケート結果では、整理・整頓はできているが、時間を守って寮生活を送るに関してはできていなかったと答えている。今後、重点目標にある規律ある寮生活を確率するに向けて取り組んでゆきたい。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
事務部	1	安全・安心で良質な教育環境の整備	施設設備の適切な保守管理や明快で迅速な事務処理を通じて、生徒及び教職員の活動をサポートする。	施設設備の適切な保守管理などを通じて安全・安心で良質な教育環境の整備が行われていると答えた生徒・教職員の割合	80%以上	60%以上	60%未満	A	定期的な保守や日々の巡視のほか学期毎の安全点検や衛生委員会での意見等を幅広く参考にして速やかな環境整備に取り組んだ。今後も効果的な予算執行に取り組み、安心安全な教育環境の維持向上に努めていく。	A
農場部	5	魅力ある農業教育の実践	地域連携・貢献事業を推進する	地域や関連産業と連携して実施した活動の回数	50回以上	45回以上	45回未満	A	地域販売実習10回以上、地域連携活動等30回以上、出前授業6回、農業クラブ・翔陽ファーム5回の活動を実施した。農場部として地域と連携した教育活動を実践することができた。	A
	3	生徒の進路意識の向上	郷土を愛し、地域を支える生徒の育成	県内就職した生徒の割合	60%以上	50%以上	50%未満	B	A科10名/18名(55.5%)、G科(食品系列)1名/1名(100%)、計11名/19名(57.8%)であった。県内就職者数は増加傾向にあるため、引き続き企業間連携を密にしながら、進路指導を実践していきたい。	B
			関連産業分野を支える生徒の育成	関連産業分野へ就職・進学した生徒の割合	60%以上	50%以上	40%未満	A	A科16名/27名(59.2%)、G科(食品系列)5名/5名(100%)、計21名/32名(65.6%)であった。関連産業への進路選択者については、さらに増えていくよう魅力ある教育稼働の実践を図りたい。	A
電子機械科	2	工業人として求められる人格形成を支援する	整理・整頓・清掃・清潔を意識し、安全で効率的な作業を実行できる。	実習棟・教室等の状況及び、整理・整頓・清掃・清潔に関するアンケート結果	85%以上	75%以上	75%未満	A	生徒へのアンケート結果は、1年生：97.7%、2年生：96.8%、3年生：100%であった。今後も継続して取り組んでいきたい。	A
	5	充実した工業教育の取り組み	基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、資格・検定等の合格率の向上	資格・検定等の合格率、および授業態度に関するアンケート結果	85%以上	75%以上	75%未満	資格:C 授業:A	主な資格・検定の合格率は、56.0%であった。授業に関する生徒へのアンケート結果は、1年生：98.4%、2年生：97.5%、3年生：90.8%であった。今後も継続的に指導をしていく必要がある。	B
			地域連携事業等の実践	地域や関連企業等と活動実践した回数	30回以上	25回以上	25回未満	A	課題研究において、地域団体と地元企業2社、及び松江高等専門学校との充実した連携活動を実践した。今後も一層充実した活動にしていきたい。	A
電気科	2	工業人としての心構えの育成	みだしなみ検査で規定が守れている生徒の割合	90%以上	85%以上	85%未満	A 97.1%	規定を守っている生徒の数は多く、この状況を継続していきたい。	A	
			期限内にレポート提出した生徒の割合	90%以上	85%以上	85%未満	A 91.2%	昨年度よりも期限内にレポートを提出した生徒の割合が減少した。特に2年生の提出状況が悪いので改善させたい。	A	
	3	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	85%以上	75%以上	74%未満	A 92.4%	第二種電気工事士では、合格率が85%第一種電気工事士は54%であった。ジュニアマイスターの特別表彰が3名、シルバー以上が9名と3年生が多くの資格を取得していた。1、2年生にも資格・検定に挑戦させたい。	A
	5	魅力ある工業教育の実践	地域連携や他学科と連携した取り組みを推進する。	地域連携や他学科連携の実施回数	20回以上	10回以上	10回未満	A 25回	今年度は地域連携の実施回数が、電気ボランティア、連理松センター交流、企業による出前授業など、新しい試みもできたが、他学科との連携ができなかったので改善していきたい。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
生物環境工学科	3	基礎学力の向上	進路実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得や各種試験に向けて積極的に取り組み、計画的に学習を行い、目標を達成したと答えた生徒の割合。80%以上(A)、70%以上(B)、70%未満(C)	80%以上	70%以上	70%未満	A 92.6%	生徒向け学校評価アンケート結果より、目標を達成したと92.6%の生徒が答えた。1年次から必受験の検定を増やし、生徒も積極的に学習に取り組んだ。学習が進路選択や意欲向上に繋がるように指導していきたい	A
	2	地域交流を通じて、自ら社会に通じる人間力の育成	学校生活、地域交流活動を通じて、自主的に挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどが向上するように指導する。	学校生活、地域交流活動を通じて、積極的な挨拶が出来るようになった、身だしなみ、言葉遣いがよくなったと答えた生徒の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	A 96.8%	地域交流活動などによって、積極的な挨拶、身だしなみ、言葉遣いが良くなったと96.8%の生徒が答えた。生徒の意識に自主性が芽生えさせる指導を継続したい。	A
	5	地域連携事業や課題研究などの学科の取り組みを積極的に発信する。	学校のホームページ等を利用して、地域連携事業や課題研究などでの生徒の活動の様子を外部に発信する。	ホームページに月平均3回以上の掲載をめざす。	30回以上	25回以上	25回未満	A 46回	A科、農場部からの学校ホームページへの掲載が、1月末で47回あり、月平均3回以上を達成した。生徒の活動の様子など情報発信を継続していきたい。	A
総合学科	2	場に相応しいふるまいを意識できる生徒の育成	相手に伝わるあいさつ、場に適切なお辞儀や言葉遣いを理解し、集団や社会の一員として、モラルある言動や身だしなみがきちんとできる。	・モラルある言動や服装・頭髪の基準が守られていたと答えた生徒の割合。 ・上記の生徒を目指して、意識を促し続けることができた、生徒が変容したと答えた教員の割合。	85%	75%	75%未満	B 生徒A97% 教員A14%	生徒の評価と教員の評価に差がみられたためBを結論とした。一部の生徒の言動や服装頭髪に対する姿勢が、クラスの雰囲気を変化させる傾向が見られた。教員が促すだけでなく、生徒同士で学校生活を振り返り、クラス全体の姿勢を良い方向に改善できるように、生徒が考え行動する時間を設けていきたい。	B
	3	専門知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒	生徒個々の能力、資質を十分に発揮させるとともに、これらを進路選択、人生設計に関連づけることができる態度を育成する。	資格、検定取得の目標を達成できたと答えた生徒の割合。1、2年生は3つ以上、3年生は上級の級を取得できたと答えた生徒の割合	85%	75%	75%未満	A 1年100% 2年73% 3年83%	1年生は、共通教科の中で資格目指し全員受検をするシステムがあり基盤を作ることができた。2、3年生も、多くの生徒が上級を目指して努力している姿勢が見られた。進路の強みになるため、今後も資格取得の挑戦を推進させていきたい。	A
	5	総合学科の魅力ある活動や情報を提供する。	総合学科の魅力ある学習や地域連携活動を実施し、総合学科通信やホームページ等にアップする。	総合学科通信は、年間6回以上発行し、活動報告や情報発信する。ホームページやInstagramを開発し、授業や活動の様子を毎月1回以上更新する。	A 85%	B 75%	C 75%未満	A	2月現在で、ホームページ34回や家庭クラブのInstagramは24回アップし、生徒の活動を報告し、地域と連携した活動ができ、生徒も意欲をもって活動していた。総合学科通信は、現在3回発行している。	A
1年学年会	5	充実した高校生活を送る	学習活動、資格・検定試験、部活動、学校行事等に積極的に取り組むよう指導する。	「学習活動、資格・検定試験、部活動、学校行事等に積極的に取り組み、充実した高校生活を送ることができている」と答えた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B	多くの生徒が部活動に入部し、球技大会、体育祭・翔陽祭などの行事にも積極的に参加していた。資格・検定にもチャレンジする生徒が増えてきているので、引き続き指導していきたい。	B
	2	基本的な生活習慣を身につけ、基礎的な人間力を育成する。 1. 時を守る 2. 場を清める 3. 礼を正す	1. 始業のチャイムは自席に着席した状態で聞かせ、提出物の期限を守らせる。 2. 教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組むよう指導する。	「始業チャイムを自席で着席して聞くことができた」「提出物を期限を守って提出した」と答えた生徒の割合。  「教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組んだ」と答えた生徒及び「教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組んでいた」と答えた教職員の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B  A	学校生活にも慣れて、普段の生活にも乱れが生じてきている。教員に着席を促されてから行動する生徒もいる。「時間や周りの様子を見て自分で判断できる」状態を目指して引き続き指導していく。  「帰宅時は机・ロッカーの上には何も置かない」状態を保つことができた。生徒は清掃にきちんと取り組み、教員も共通認識で生徒と一緒に整理整頓、清掃に取り組むことができた。	B  A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
2年学年会	2・3	<p>基本的な生活習慣を育成し、明確な進路目標を設定させる。</p> <p>1. 服装・頭髪・挨拶・返事・言葉遣い。</p> <p>2. 明確な進路目標を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の服装・頭髪の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりできるよう指導する。</li> <li>・進路学習を通して、具体的な進路目標を設定させる。</li> </ul>	<p>日常の服装・頭髪の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。</p> <p>具体的な進路目標を設定した生徒の割合。</p>	90%以上	80%以上	80%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員79.1%、保護者95.2%</li> <li>服装に関しては、スカート丈を短くする生徒が見られた。指導すれば一時は直すが、再び短くする生徒が多かった。挨拶に関しては、自分から積極的に行う生徒が大半だった。すべてを考慮すると、今後の社会生活や面接試験に向けてもっと改善していく必要がある。3年生に向けて、指導を徹底したい。</li> <li>・進路目標の設定に関しては、第2回進路希望調査において具体的な職種や進学先を挙げることできた生徒の割合は80.5%であった。まだ進路を決めかねている生徒も2割近くいるため、面談等を通じて進路選択への意識を高める指導をしていく。</li> </ul>	B
	5	インターンシップの充実	<p>事前指導において地元企業の魅力を伝える。</p> <p>インターンシップ活動を通じて地元で働くやりがいを学ばせる。</p>	<p>地元企業の魅力や地元で働くことの意義を感じることができた生徒の割合。</p>	90%以上	80%以上	80%未満	B	<p>生徒へのアンケートについては実施していないため、具体的な数値を示すことはできないが、生徒の日記や受け入れてくださった企業からの生徒への総合評価の内容を見ると、進路希望が就職・進学に関わらず、大半の生徒が積極的に取り組んでいたことがうかがえる。</p>	B
3年学年会	2	<p>社会人として必要な資質の育成と基本的な生活習慣確立の徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業(朝終礼等を含む)開始時刻や提出物の期限を守らせる指導</li> <li>・清掃指導や身の回りの整理整頓指導</li> <li>・清潔感ある頭髪・服装や礼儀正しい挨拶、言葉遣いの指導</li> </ul>	<p>生徒による「学校生活に関するアンケート」において、そう思う・ややそう思うと答えた生徒の割合</p>	90%以上	80~90%	80%未満	A	<p>そう思う・ややそう思うと回答した3年生の割合は、チャイム着席98.0%、提出物期限94.9%、挨拶・頭髪服装95.9%で、一見すると良好であるが、生徒の考える合格基準と、教職員のそれとの差が大きいと感じる。翔陽高校卒業生として自信をもって送り出せるよう、指導をさらに徹底したい。</p>	A
	3・5	<p>望ましい勤労観の育成と進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の将来の可能性の拡がりを実感させ、広い視野を持たせる進路指導</li> <li>・多様化する志望に対し、個々に応じた丁寧な進路指導</li> </ul>	<p>就職および進学の第1志望合格率</p>	100%	95~99%	95%未満	C	<p>3年生106名のうち、就職、進学それぞれ3名ずつが不合格を経験し、第1志望合格者は100名、合格率は94.3%であった。最終的には進路先を全員確定させることはできたが、自身の第1進路希望を叶えられるか否かは、学校の魅力化や生徒募集にも大きく関係するため、今後も教職員一丸となって全力でサポートしていきたい。</p>	B